

支援機器相談シート

相談日 令和4年 1月14日

高等部 生徒1

相談内容

●保護者より

興味をもてることが増えたり、その物に自分から触るなど身体を動かそうとすることが増えたりしてほしい。そのために有効な支援方法や機器があれば知りたい。

●担任より

教育課程Ⅳ。立位、座位の保持不可。手指を使う活動は車椅子に乗っている状態で多い。聴力は100 dB以下の音は聞こえないと診断されている。視力はしっかりと焦点が合う感じではないが、興味のあるものは追視することがある。顔は認知できると、人が振り向いたり、お気に入りのぬいぐるみを見せたりすると笑うことがある。振動を感じたり、身体を動かしてもらったりするなど体感する活動を好む。(かき氷、扇風機、太鼓など振動を伴う楽器など)自分から興味をもって物に触れようとする事は、現状ではない。

相談結果

【1】自分から体を動かすことが少ない。

・周りの大人が手渡したものを触って一緒に遊ぶことが多いが、本人がいつでも手を伸ばしたら届く範囲にスイッチや好きなおもちゃを置いて触れられるようにしておくとい。



- ♪ 偶然手に触れたら柔らかくて気持ちいいことに気づいた!
- ♪ スイッチに触れたら、誰かが気づいて声をかけてくれた。
- ♪ おもちゃにふれたらブルブル動いて楽しかった!

気づきが自発的な動きにつながるかも!

【2】何かに取り組もうとすると緊張が入ってしまう。

・リラックスした状態をつくるために、環境面のチェックを試してみる。



- ? 床が硬くて緊張が強まってしまわないか。⇒低反発のマットを敷いてみる。
- ? 手足がバタバタして落ち着かない。⇒膝に重い毛布やぬいぐるみを載せると落ち着くことがある。

【3】何が好きなのか知りたい。何に興味があるのかもっと探るために何をしたらよいか。

・新しい刺激に対してどんな反応を示すのかを知るために、いろいろな経験をさせてみる。



例えば 快の刺激だけでなく、あえて不快の刺激も経験させてみる。

- ・氷に触れて「冷たい!」と感じる。
- ・すっぱい味や苦い味も試してみる。

・いつもと違う TV 番組を見せてみる。

不快の表出も大事なこ
と。ここから新しい発見
があるかもしれない。

【4】人との関わりが好きなので、それを生かしたい。

・例：iPad にスイッチをつなげて自分で写真を撮る。その写真を題材にして学級で写真を紹介したり、ご家庭で話題にしたりすると、その写真を媒介に楽しい経験をするという機会が得られる。

♪♪本人のサインや表現を周りの大人が見落とししたり勘違いしたりしないようにするために、また誰でも同じ対応ができるように、話しかけるとよく聞こえる距離やよく見える範囲を示したものを用意するとよい。

【5】その他

・お風呂で使っている椅子が合わないが、もっと良いものがあれば教えてほしい。



ファイヤフライスプラッシー



レッキーバスチェア